

5 選択科目

- | | | |
|----|----------|------|
| 35 | 農業経営Ⅱ | (2年) |
| 36 | 農業政策Ⅱ | (2年) |
| 37 | くらしと法律Ⅱ | (1年) |
| 38 | 労働の科学 | (1年) |
| 39 | 農村生活環境 | (2年) |
| 40 | 健康と栄養科学 | (1年) |
| 41 | 文章表現 | (2年) |
| 42 | 実用数学 | (1年) |
| 43 | 農業時事 | (2年) |
| 44 | 作物学概論 | (1年) |
| 45 | 園芸学概論 | (1年) |
| 46 | 畜産学概論 | (1年) |
| 47 | 資格取得講座Ⅰ | (1年) |
| | ①大型特殊免許 | |
| | ②毒物劇物取扱者 | |
| | ③英語検定 | |
| 48 | 資格取得講座Ⅱ | (1年) |
| | ①大型特殊免許 | |
| | ②危険物取扱者 | |
| | ③簿記検定 | |
| 49 | 資格取得講座Ⅲ | (2年) |
| | ①危険物取扱者 | |
| | ②毒物劇物取扱者 | |
| | ③大型特殊免許 | |
| 50 | 資格取得講座Ⅳ | (2年) |
| | ①英語検定 | |
| | ②簿記検定 | |
| | ③ボイラー技士 | |

整理番号： 35

科目名： 農業経営Ⅱ

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
本多友和	有	元JAあいち経済連職員

授業の目的及び内容	マーケティングの基礎を復習するとともに、農畜産物のマーケティング活動の事例を学ぶ。
授業の方法	①教科書に基づく講義及びケーススタディ（グループ討議） ②毎回、前回講義復習問題の実施
到達目標	①マーケティングの基礎習得 ②農畜産物マーケティング活動の特徴習得

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業経営Ⅱ マーケティング 農業のマーケティング教科書	阿久津聡 岩崎邦彦	新星出版社2023 日本経済新聞出版社2017			
参考文献	農業経営Ⅰ		本校教科書			
その他教材	JAグループあいちの事業レポート	J Aあいち経済連				
成績評価の方法・基準	受講姿勢・復習問題（20%）、課題レポート（10%）、定期試験（70%）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	食料・流通を取り巻く動向、マーケティングの概要（マーケティングとは、マーケティングの変遷）	2
2	マーケティングの定石プロセス（SWOT分析、3C分析、STP分析、リサーチ、AIDMA、マズローの法則、4P/4C分析）、前回講義復習問題	2
3	農畜産物のマーケティングの視座、前回講義復習問題	2
4	農畜産物のマーケティングの成功事例、前回講義復習問題	2
5	農畜産物のブランド化戦略、前回講義復習問題	2
6	農畜産物の6次産業化、前回講義復習問題	2
7	農畜産物マーケティング5.0、前回講義復習問題	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 36

科目名： 農業政策Ⅱ

科目群	選択科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
渡会 達朗	有	学識経験者

授業の目的 及び内容	農業政策Ⅰの学習を踏まえ、海外を含めた食糧・農業事情と農産物貿易の状況を学ぶとともに食の安全・安心を確保するための制度や農業の直面する問題を学習する。
授業の方法	海外農業と食糧事情、海外農産物の輸入の実態、国内青果物の流通と市場整備、トレーサビリティと食品表示、農産物の輸出に対する方向性、農業基盤の強化と後継者対策を座学方式により学習をする。
到達目標	農業政策の各授業の内容をよく理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	食料・農業・農村に関するファクトブック		J A全中			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験(90%)、講義中のまとめシート・受講姿勢(10%)等を加味し、総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	・食料・農業・農村基本計画 ・日本の食料自給率	2
2	・安全な食料供給の取り組み	2
3	・国内の野菜・果樹の生産量と輸入量の推移 ・農産物の諸外国との貿易	2
4	・食料の輸入経過と実態 ・農産物の輸出に対する方向性	2
5	・食料輸入の増大をもたらした諸要因 ・輸入青果物の流通経路と手続き	2
6	・輸入増大に対する問題点	2
7	・輸入青果物対策 ・農業基盤の強化と後継者対策	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 37

科目名： くらしと法律Ⅱ

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
竹内 典夫	無	外部講師（岡崎女子短期大学）

授業の目的及び内容	農業、農村を取り巻く生活と営農に深い関わりのある法律について理解するため、個別法を中心に学習する。
授業の方法	講義による民法、農地法、農業委員会制度、農業協同組合法を学習
到達目標	営農に深い関わりのある法律について理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	農業委員会制度のあらまし 農地の法律早わかり		全国農業会議所 全国農業会議所			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験(90%)、講義中のまとめシート・受講姿勢(10%)等を加味し、総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	選挙と政党について ① 総選挙と通常選挙	2
2	相続について ① 相続の流れ ② 相続人の範囲	2
3	農地法について ① 農地の種類	2
4	農地転用について ① 第3条、第4条、第5条	2
5	農業委員会について ① 農業委員会の構成 ② 農業委員会の業務	2
6	農業協同組合について	2
7	農業の今日的課題について ① 農業協同組合の業務	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 38

科目名： 労働の科学

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
神谷 正仁	無	学識経験者

授業の目的及び内容	労働による身体や健康上に与える影響を科学的に分析し、農業労働の実態認識や問題点を整理し改善方策等を研究する。労働に関する基礎的な労務関係の知識や農業労働の科学的な把握に必要な考え方を学ぶ。
授業の方法	①講義はプレゼンを使用し、時には討議を行う。 ②配布したテキストは事前に熟読しておく。 ③講義まとめシートを各回配付し、講義終了後に提出する。
到達目標	①農業の特質を理解し、農作業の安全や健康障害等の対策について認識する。 ②労務管理の基礎的な知識を習得し、農業経営等に活かすことができる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	自作資料	県立農業大学校	県立農業大学校			
参考文献	農業労働管理の基礎と実際 ―農業労働の改善・快適化をめざして―	農林水産省農産園芸局	(社)農山漁村女性・生活活動支援協会			
その他教材	・労働者の健康を守るために ・やさしい労務管理の手引き ・知って役立つ労働法 ・アグリウェブ 農業支援ポータルサイト ・食料・農業・農村白書	厚生労働省中央労働災害防止協会HP アグリウェブHP 農林水産省HP	厚生労働省 アグリウェブ 農林水産省			
成績評価の方法・基準	定期試験(90%)、講義中のまとめシート・受講姿勢(10%)等を加味し、総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	農業労働の特質 ①労働に関する基礎知識 ②農業の労働過程 ③農業労働力の特徴(雇用労働力、家族労働力、農業法人) ④農業の担い手の動向 ⑤農業労働をめぐる問題点	2
2	農業労働の安全対策 I ①安全対策の基本事項 ②農作業事故の実態	2
3	農業労働の安全対策 II ③農業機械に求められる安全装備 ④農業者に求められる農作業の安全 ⑤農薬散布作業の災害防止	2
4	農業労働の健康障害対策 I ①健康障害の発生(アレルギー性疾患、ハウス病、農薬使用による健康障害)	2
5	農業労働の健康障害対策 II ②健康障害への対策 ③過重労働対策(勤務、有給、労働時間、健康保険等)	2
6	農業労働における労務管理 I ①労働法について(労働法と労働組合法) ②労働者の雇用について(労働契約、就業規則、各種保険等)	2
7	農業労働における労務管理 II ①労働条件に関する規則(賃金、労働時間、休憩、休日、労働衛生及び健康管理) ②労働関係終了(退職、解雇)	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 39

科目名： 農村生活環境

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
井川 千春	有	学識経験者

授業の目的及び内容	農村の生活環境、良好な自然環境、循環型社会のあり方等を考察し、豊かな農村生活を築いていくための知識、良好な自然環境を有用な資源と位置づけ、男女が共に参画した農業・農村社会を創りあげることを学ぶ。
授業の方法	①講義は基本的には講師作成テキストを元に口頭で説諭するが、一部パワーポイント、ビデオ等を使用する。 ②講義参考資料を毎回配布し、講義で学んだ用語やポイントをまとめ、講義終了後提出する。
到達目標	①農村社会の構造・組織、農村の自然環境、自然循環型社会等の理解が深まる。 ②都市農村交流、グリーン・ツーリズム、家族経営協定等の知識をもとに、豊かな農村生活を築くためのポイントを理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献	食と緑の基本計画		県印刷物			
その他教材	農村生活環境		講師作成資料			
成績評価の方法・基準	試験等により評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	農村社会の構造と組織 ①農村社会の構造的変化、②農村を巡る人口と農業経営の分化、③農業集落の混住化と都市化、④機能集団の形成と集落共同体の弛緩、⑤農業集落の捉え方と集落組織	2
2	農村地域の活力向上 ①農村地域の現状、②地域活動とは、③活力とは、④活力向上の過程 自然循環型社会 ①循環型社会とは、②循環型社会形成推進計画のポイント、③持続可能な社会に向けた総合的取り組み、④地域循環圏とは	2

3	<p>自然の現代的価値</p> <p>①我が国の自然の特徴、②自然の意義・価値、③農村自然環境の構成要素、④生物多様性、⑤農村自然環境の劣化の要因、⑥農村における自然環境復元の方向、⑦農業の多面的機能</p>	2
4	<p>グリーン・ツーリズム（G・T）</p> <p>①G・Tとは何か、②G・Tの歩み、③背景と可能性、④C I 運動が必要、⑤民間と行政の役割分担の明確化、⑥推進体制の類型別モデル、⑦社会的・経済的効果、⑧農村振興の戦略的な手段として</p>	2
5	<p>都市農村交流</p> <p>①交流の必要性、②交流の現状、③交流のあり方、④交流推進の4つの視点、⑤都市住民が求めるもの、⑥農山漁村側が求めるもの、⑦農山漁村が提供できる機能と活動、交流の視点</p>	2
6	<p>家族経営協定</p> <p>①家族経営協定に至る沿革、②今日の家族経営協定、③男性の無理解、女性の躊躇い、④ルール作りの進め方、⑤具体的な内容、⑥家族経営協定と法律との関係、⑦家族経営協定締結農家の推移</p>	2
7	<p>食と緑の基本計画</p> <p>①めざす姿、②現状と課題、③施策体系と主な取り組み、④重点プロジェクト</p>	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 40

科目名： 健康と栄養科学

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
森島 雅代	有	外部講師(愛知学泉短期大学) 他

授業の目的及び内容	農業は、健康の源である食生活の基礎である食糧を供給しているが、その食糧の栄養を科学し、供給責任を自覚するとともに、健康を左右する食生活や疾病等を学習する。
授業の方法	講義により栄養と健康、食品の栄養素と機能、疾病と食生活を学ぶ。
到達目標	健康を左右する食生活や疾病等を学習する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成の資料					
成績評価の方法・基準	レポート・提出物等による理解度20%、試験80%					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	・オリエンテーション「健康と栄養科学」 ・食品の定義とその分類及び成分	2
2	・栄養素とその機能(1)	2
3	・栄養素とその機能(2)	2
4	・非栄養素とその機能	2
5	・栄養と疾病	2
6	・栄養素と疾病 ・食物と疾病	2
7	・栄養と労働及び運動 ・現代食生活の問題点 ・食物と料理と栄養	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 41

科目名： 文章表現

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
緑川 幸成	無	外部講師(中京大学)

授業の目的 及び内容	文章表現の基礎的な方法論を習得する。
授業の方法	1. 小論文の作成 2. 課題レポートの作成
到達目標	文章表現の基礎的な方法論を習得し、小論文の作成と課題レポートの作成ができるようにする。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成の資料					
成績評価の方法・基準	レポート・提出物等による理解度20%、試験80%					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	自己表現の目的（表現すべき自己の発見と認識）	2
2	自己表現の目的（表現すべき自己の発見と認識）	2
3	表現の方法（思考方法としてのレトリック）	2
4	表現の方法（思考方法としてのレトリック）	2
5	現実に対する批判的な見方（多角的な現実認識と表現）	2
6	言葉の選択と認識（表現の個性について）	2
7	言葉の選択と認識（表現の個性について）	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 42

科目名： 実用数学

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
近藤 啓	有	元農業高校教員

授業の目的及び内容	農業に関連するデータ解析等に有用な数学の基礎と応用の学習をする。
授業の方法	教科書及び講師作成プリントを使用した講義主体の形式
到達目標	データ解析に必要な数学の基礎知識を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	完全独習 統計学入門	小島 寛之	ダイヤモンド社			
参考文献						
その他教材	講師作成プリント					
成績評価の方法・基準	試験 (100%)					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	度数分布表とヒストグラム、平均値、分散と標準偏差	2
2	標準偏差の活用例	2
3	正規分布、仮設検定、区間推定	2
4	母集団と統計的推定、母分散と母標準偏差	2
5	標本平均、母平均の区間推定	2
6	標本分散とカイ二乗分布、正規母集団の母分散の推定、比例する統計量	2
7	正規母集団の区間推定、t分布、t分布による区間推定	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 43

科目名： 農業時事

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
土屋 航	有	J A 愛知中央会職員

授業の目的及び内容	食料・農業・農村を取り巻く環境の変化と J A 事業の特徴を学ぶ。
授業の方法	講義方式
到達目標	食料・農業・農村を取り巻く環境の変化と J A 事業の特徴を学ぶ。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	日本農業と J A	J A 全中	J A 全中			
参考文献	日本経済と J A 事業	J A 全中	J A 全中			
その他教材						
成績評価の方法・基準	試験 100% 評価					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	食料需給と食生活	2
2	農業・農村の動向と農業経済	2
3	農業政策の展開と農産物取引の動向	2
4	J A 事業の特徴	2
5	指導事業	2
6	経済事業	2
7	信用事業・共済事業	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 44

科目名： 作物学概論

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
加藤 裕司	有	元愛知県職員

授業の目的及び内容	一般作物の性質とその生産を理解するために必要な基礎的な分野について学習する。 1 作物の起源と進化 2 作物の種類と分類 3 作物の生育 4 作物の形態と機能 5 作物の生育環境 6 持続的な作物生産技術
授業の方法	講師作成のテキスト及びプリントを使用した座学
到達目標	作物の生態及び栽培環境、栽培知識について理解を深める。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	作物学概論	講師作成テキスト				
参考文献						
その他教材	プリント					
成績評価の方法・基準	試験（80%）、提出物及びレポート（20%）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	I 作物の特性と作物生産 ①農業と作物 ②作物の種類と品種	2
2	I 作物の特性と作物生産 ③農業の発育と適応 ④作物の形態と機能	2
3	I 作物の特性と作物生産 ⑤作物の成長と生理	2
4	I 作物の特性と作物生産 ⑥作物の生産と環境	2
5	I 作物の特性と作物生産 ⑦作物の生産管理	2
6	II 主要作物の栽培 イネの一生と栽培の実際	2
7	II 主要作物の栽培 コムギの一生と栽培の実際 ダイズの一生と栽培の実際	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 45

科目名： 園芸学概論

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
石川高史	有	農業改良普及課24年経験
志知昭宏	有	農業総合試験場職員9年経験

授業の目的及び概要	園芸学では食物としての野菜・果樹に、花を含め園芸作物としている。園芸作物の歴史、分類から利用までの幅広い範囲を対象として果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学の3分野に共通する学問の基礎・基本を学ぶ。
授業の方法	①講義はプロジェクターを使用し、時には指名し質問する。 ②配布したテキストは事前に熟読しておく。 ③レジュメを配付することがある。講義終了後に小テストを実施する場合もある。
到達目標	①園芸作物の生理生態・特徴を幅広く理解すること。 ②産業としての園芸を幅広く理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	園芸学入門	今西英雄・小池安比古	朝倉書店			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験60%、出席点40%で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	園芸と園芸作物 ①園芸の定義と特色 ②愛知の農業（本県農業の全国位置、農業生産）	2
2	種類と分類 ①植物学的分類（自然、生態学的・人為、命名） ②果樹の分類、野菜の分類、花卉の分類	2
3	形態 ①栄養器官の形態（茎・根・葉） ②生殖器官（花・果実・種子）	2
4	育種 ①育種の方法（生殖様式） ②採種と種子生産（選抜） ③品種の登録と保護	2
5	繁殖 ①種子繁殖 ②栄養繁殖（挿し木・取り木他） ③バイオテクノロジーの利用	2
6	発育と生理 ①植物の生活環（植物の一生、種子の形成発芽） ②栄養器官の形成と発達 ③果実の発育と成熟（タイプ、主要成分の変化、ホルモン）	2
7	生育環境と栽培 ①土壌環境と養分吸収・施肥（単粒・団粒構造、化学性） ②栽培管理（栽培型と各管理、土壌管理、病虫害・除草管理）	2
8	筆記試験	1
合計		15

整理番号： 46

科目名： 畜産学概論

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
山本 るみ子	有	農業大学校4年、農業総合試験場18年、普及8年

授業の目的 及び内容	農業における畜産の位置付けと主な家畜（牛・豚・鶏）の飼養と畜産物生産に関する基礎的な知識を学ぶ。 1 家畜と畜産 2 牛と乳肉・ 3 豚と豚肉 4 鶏と鶏卵肉 5 エコフィードとアニマルウェルフェア 6 ふん尿処理と堆肥利用
授業の方法	作成資料の「畜産学概論」を講義資料として配付し、資料に基づいて内容を説明する。
到達目標	畜産業の状況や畜産経営の現況についての知識を得ること。 家畜の生理、生態の理解が深まること。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、出席数（40%）					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	家畜の定義と家畜化の歴史、家畜と畜産、日本及び世界の畜産の状況を学び、農業における畜産の位置づけを理解する。	2
2	牛の品種と牛肉、反芻動物である牛の特徴とそれに応じた飼養管理方法を学び、牛の複雑な消化生理を理解する。	2
3	牛の繁殖生理、産乳生理を学び、牛肉と乳の生産過程を理解する。	2
4	豚の品種と系統、繁殖生理、食品残渣等を活用したエコフィード給与を学び、日本の養豚の現状を理解する。	2
5	鶏の品種、在来種と地鶏、鶏の特徴、卵生産を学び、日本の養鶏の現状を理解する。	2
6	エコフィードなどの飼料給与状況とアニマルウェルフェアに関する家畜飼養状況の変化について理解する。	2
7	家畜ふん尿処理技術の基本を学び、堆肥化の過程と発酵促進条件を理解する。	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 47①

科目名： 資格取得講座Ⅰ（大型特殊免許）

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
本庄 弘樹	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	農業を営むために必要な大型特殊免許（農耕車限定）を取得するための高度な学習を行う。
授業の方法	道路交通法に従ったトラクタの運転方法の説明をした後、実物（トラクタ）を使って路上走行の実習を行う。
到達目標	大型特殊免許（農耕車限定）を取得するために必要な知識及び技能を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	資格取得講座テキスト	講師作成	本校			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率・学習態度（50%）、操作技能（50%）で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	安全かつ円滑な路上走行、Bコースの走行方法、Bコース走行の実習	4
2	Bコース走行の実習	4
3	Aコースの走行方法、Aコース走行の実習	4
4	Aコース走行の実習	2
5	試験	1
合計		15

特記事項

資格取得には、授業以外に次の行事に出席（合格）することが必要

受験説明 7月 農大機械教室

適性試験 7月又は8月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）

事前練習 7月又は8月 農大運転コース

技能試験 7月又は8月 農大運転コース

免許受領 7月又は8月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）

上記行事の日程は変更の可能性がある。

技能の上達状況に応じて授業時間以外に補習を実施する。

単位を取得できないものは、技能試験の受験を認めない。

受講条件

- ・受講初日に普通免許（AT限定で可）取得済みであること。見込みは認めない。
- ・最大16人を上限とする。
- ・大特免許を取得する意思があること（授業の単位取得が目的のものは不可）。

整理番号： 47②

科目名： 資格取得講座 I (毒物劇物取扱者)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
板倉 朝臣	有	学識経験者

授業の目的及び内容	農業用品目毒物劇物取扱者試験の合格を目指す。
授業の方法	講義方式
到達目標	農業用品目毒物劇物取扱者試験の合格を目指す。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	毒物劇物取扱者試験講習テキスト	矢島将一				
成績評価の方法・基準	単位取得試験					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	法令	4
2	基礎化学	4
3	毒物劇物の性質、貯蔵、取扱い 実地試験	4
4	例題	2
5	単位取得試験	1
6		
7		
8		
9		
合計		15

整理番号： 47③

科目名： 資格取得講座 I (英語検定)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
近藤 馨	無	外部講師 (元県立高等学校教諭)

授業の目的及び内容	映画のスク립トを利用して、実践的な英語力を身につける。
授業の方法	講義方式
到達目標	リスニング及び英語表現において英語検定に対応できる英語力を身につける。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	Roman Holiday	曾根田憲三他	開文社出版界社			
参考文献						
その他教材	自作教材					
成績評価の方法・基準	試験と小テストの総合で評価					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	英語による簡単な自己紹介ができる英語表現を学ぶ (自作教示参照)。	2
2	映画の中で展開される自己紹介場面を鑑賞しながら、短い場面でのスク립トを読む。	3
3	場面II 英語字幕を付けての映画鑑賞。スク립トを深読みながら、英語表現を学ぶ。	3
4	場面III 同上	3
5	場面IV 同上	3
6	まとめ	1
7		
8		
9		
合計		15

整理番号： 48①

科目名： 資格取得講座Ⅱ（大型特殊免許）

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
本庄 弘樹	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	農業を営むために必要な大型特殊免許（農耕車限定）を取得するための高度な学習を行う。
授業の方法	道路交通法に従ったトラクタの運転方法の説明をした後、実物（トラクタ）を使って路上走行の実習を行う。
到達目標	大型特殊免許（農耕車限定）を取得するために必要な知識及び技能を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	資格取得講座テキスト	講師作成	本校			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率・学習態度（50%）、操作技能（50%）で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	安全かつ円滑な路上走行、Bコースの走行方法、Bコース走行の実習	4
2	Bコース走行の実習	4
3	Aコースの走行方法、Aコース走行の実習	4
4	Aコース走行の実習	2
5	試験	1
合計		15

特記事項

資格取得には、授業以外に次の行事に出席（合格）することが必要

- 受験説明 1月 農大機械教室
- 適性試験 1月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）
- 事前練習 1月 農大運転コース
- 技能試験 1月 農大運転コース
- 免許受領 1月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）

上記行事の日程は変更の可能性がある。

技能の上達状況に応じて授業時間以外に補習を実施する。

単位を取得できないものは、技能試験の受験を認めない。

受講条件

- ・受講初日に普通免許（AT限定で可）取得済みであること。見込みは認めない。
- ・最大16人を上限とする。
- ・大特免許を取得する意思があること（授業の単位取得が目的のものは不可）。

整理番号： 48②

科目名： 資格取得講座Ⅱ(危険物取扱者)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
井澤 義仁	有	元名古屋消防局職員

授業の目的及び内容	危険物取扱者免状の資格取得を目指す。
授業の方法	講義方式
到達目標	危険物取扱者免状の資格取得

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	危険物取扱必携(法令編、実務編)例規集	(一財)全国危険物安全協会	(一財)全国危険物安全協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	模擬試験結果、単位取得試験、受講態度					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	危険物に関する法令	4
2	基礎的な物理学及び基礎的な化学	6
3	基礎的な物理学及び基礎的な化学 危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法	2
4	模擬試験及び解説	2
5	単位取得試験	1
6		
7		
8		
合計		15

整理番号： 48③

科目名： 資格取得講座Ⅱ（簿記検定）

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
青井 孝	無	元商業高校教員

授業の目的 及び内容	経営を営むために必要な資格の取得のための高度な学習をする。 1 簿記の基本 2 仕分けのイロハ 3 決算処理 4 記帳の種類と役割 5 試算表・精算表 6 伝票会計
授業の方法	①プリント中心に行う。 ②多くの問題を繰り返し行う。
到達目標	①経営に必要な複式簿記の基礎知識を理解する。 ②資格取得のための能力を身につける

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	簿記ワークブック	渡部裕亘、片山 覚、北村啓子	中央経済社			
参考文献	簿記講義	渡部裕亘、片山 覚、北村啓子	中央経済社			
その他教材						
成績評価の 方法・基準	試験（80%）、プリント等の提出物（10%）、受講意欲（10%）等を加味し総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	2
2	収益・費用と損益計算書	2
3	取引と仕訳	2
4	勘定記入・帳簿	2
5	試算表の作成	2
6	元帳の締切りと財務諸表の作成	2
7	精算表の作成	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 49①

科目名： 資格取得講座Ⅲ(危険物取扱者)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
井澤 義仁	有	元名古屋市消防局職員

授業の目的及び内容	危険物取扱者免状の資格取得を目指す。
授業の方法	講義方式
到達目標	危険物取扱者免状の資格取得

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	危険物取扱必携（法令編、実務編）例規集	(一財) 全国危険物安全協会	(一財) 全国危険物安全協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	模擬試験結果、単位取得試験、受講態度					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	危険物に関する法令	4
2	基礎的な物理学及び基礎的な化学	6
3	基礎的な物理学及び基礎的な化学 危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法	2
4	模擬試験及び解説	2
5	単位取得試験	1
6		
7		
8		
合計		15

整理番号： 49②

科目名： 資格取得講座Ⅲ(毒物劇物取扱者)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
板倉 朝臣	有	学識経験者

授業の目的及び内容	農業用品目毒物劇物取扱者試験の合格を目指す。
授業の方法	講義方式
到達目標	農業用品目毒物劇物取扱者試験の合格を目指す。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	毒物劇物取扱者試験講習テキスト	矢島将一				
成績評価の方法・基準	単位取得試験					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	法令	4
2	基礎化学	4
3	毒物劇物の性質、貯蔵、取扱い 実地試験	4
4	例題	2
5	単位取得試験	1
6		
7		
8		
9		
合計		15

整理番号： 49③

科目名： 資格取得講座Ⅲ（大型特殊免許）

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
福田 充洋	有	農業大学校職員21年経験

授業の目的及び内容	農業を営むために必要な大型特殊免許（農耕車限定）を取得するための高度な学習を行う。
授業の方法	道路交通法に従ったトラクタの運転方法の説明をした後、実物（トラクタ）を使って路上走行の実習を行う。
到達目標	大型特殊免許（農耕車限定）を取得するために必要な知識及び技能を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	資格取得講座テキスト	講師作成	本校			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率・学習態度（50%）、操作技能（50%）で評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	安全かつ円滑な路上走行、Bコースの走行方法、Bコース走行の実習	4
2	Bコース走行の実習	4
3	Aコースの走行方法、Aコース走行の実習	4
4	Aコース走行の実習	2
5	試験	1
合計		15

特記事項

資格取得には、授業以外に次の行事に出席（合格）することが必要

受験説明 7月又は9月 農大機械教室

適性試験 7月又は8月又は10月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）

事前練習 7月又は8月又は10月 農大運転コース

技能試験 7月又は8月又は10月 農大運転コース

免許受領 7月又は8月又は10月 運転免許試験場（名古屋市天白区平針南）

上記行事の日程は変更の可能性がある。

技能の上達状況に応じて授業時間以外に補習を実施する。

単位を取得できないものは、技能試験の受験を認めない。

受講条件

- ・受講初日に普通免許（AT限定で可）取得済みであること。見込みは認めない。
- ・最大16人を上限とする。
- ・大特免許を取得する意思があること（授業の単位取得が目的のものは不可）。

整理番号： 50①

科目名： 資格取得講座Ⅳ(英語検定)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
近藤 馨	無	外部講師（元県立高等学校教諭）

授業の目的及び内容	映画のスク립トを利用して、英語の実践力を学ぶ
授業の方法	講義方式
到達目標	英語検定準2級の取得を目指す。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	自作教材					
成績評価の方法・基準	試験と小テストの総合で評価					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	英語による簡単な自己紹介ができる英語表現を学ぶ（自作教示参照）。	2
2	映画の中で展開される自己紹介場面を鑑賞しながら、短い場面でのスク립トを読む。	3
3	場面II 英語字幕を付けての映画鑑賞。スク립トを深読みながら、英語表現を学ぶ。	3
4	場面III 同上	3
5	場面IV 同上	3
6	まとめ	1
7		
8		
9		
合計		15

整理番号： 50②

科目名： 資格取得講座Ⅳ（簿記検定）

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通		専攻名	共通	
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							否

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
青井 孝	無	元商業高校教員

授業の目的 及び内容	経営を営むために必要な資格の取得のための高度な学習をする。 1 簿記の基本 2 仕分けのイロハ 3 決算処理 4 記帳の種類と役割 5 試算表・精算表 6 伝票会計
授業の方法	①プリント中心に行う。 ②多くの問題を繰り返し行う。
到達目標	①経営に必要な複式簿記の基礎知識を理解する。 ②資格取得のための能力を身につける

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	簿記ワークブック	渡部裕亘、片山 覚、北村啓子	中央経済社			
参考文献	簿記講義	渡部裕亘、片山 覚、北村啓子	中央経済社			
その他教材						
成績評価の 方法・基準	試験（80%）、プリント等の提出物（10%）、受講意欲（10%）等を加味し総合的に評価する。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	資産・負債・純資産（資本）と貸借対照表	2
2	収益・費用と損益計算書	2
3	取引と仕訳	2
4	勘定記入・帳簿	2
5	試算表の作成	2
6	元帳の締切りと財務諸表の作成	2
7	精算表の作成	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 50③

科目名： 資格取得講座Ⅳ(ボイラー取扱)

科目群	選択科目	必選区分	選択	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	共通	専攻名	共通		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
高山 真智子	有	(一社) 日本ボイラー協会愛知県支部

授業の目的及び内容	ボイラー取扱資格取得を目指した講義
授業の方法	講義方式
到達目標	ボイラー取扱免許取得

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	ボイラー実技テキスト ボイラー実技講習補足資料	日本ボイラ協会本部 日本ボイラ協会愛知支部	大日本印刷(株) (株)カミヤマ			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	資格取得試験結果、単位、レポート等提出物					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	燃焼構造部分 (一部)	4
2	燃焼構造部分 (一部)	4
3	附属装置、附属品の取扱い (一部)	4
4	点検及び異常時の処置 (一部)	2
5	試験	1
6		
7		
8		
合計		15